

# グローバルセキュリティ基準への対応を目指して、 Taniumでサイバーハイジーンを実現



## FURUNO

### 古野電気株式会社

業種  
製造業

従業員数  
1000~5000名

本社所在地  
兵庫県西宮市

導入商品  
Tanium Core, Asset, Discover,  
Patch, Deploy

### Taniumの導入効果

- ・ グローバルビジネスで必要となる NIST SP800-171 対応を加速
- ・ リアルタイムにすべての端末の状態を把握し、今まで把握できていなかった非管理端末を検出
- ・ エンドユーザーの手を煩わせることなく、端末を確実に管理
- ・ ネットワーク帯域に負荷をかけずに効率的にパッチやアプリケーションを配信し、作業負荷も大幅に軽減
- ・ Tanium Couldで従来のオンプレミスのシステムと比較して、運用負荷を50%軽減

世界最大手の船用総合電機メーカーである古野電気株式会社(以下、フルノ)は、米国立標準技術研究所のガイドライン「NIST SP800-171」に対応したセキュリティ環境を構築する一環として、Taniumの活用を開始した。

## グローバルビジネスに求められるセキュリティへの対応

フルノは、世界で初めて魚群探知機を開発した企業だ。その後も漁船やプレジャーボート、商船といった船用の電子機器を次々と開発し、現在ではヘルスケア、交通、気象観測などの産業分野に製品とサービスを提供するメーカーとして、グローバル市場で確固たる地位を確立している。

様々な国や地域の顧客やサプライヤと取り引きするためには、それぞれが要求するセキュリティ規準を充たす必要がある。世界的なサプライチェーンに対応するためには、グローバルでスタンダードとなりつつあるNIST SP800-171への対応が必要になると判断し、その準備を進めることになった。

IT部 デジタルソリューション課 課長 田村 進司氏は、「グローバルのセキュリティガイドラインを充たすために、全社的なセキュリティについてエンドポイントを含めて見直すことにしました。将来はゼロトラストネットワークに近いところまでITインフラを持っていく可能性もあり、単なる現状の改善だけではなく、将来の礎となる施策として検討した結果です」と話す。



IT部 デジタルソリューション課 課長  
田村 進司氏

弊社が目標としている

グローバルセキュリティ基準

NIST SP800-171に

対応するために、着々と準備を進めています。

Taniumは、状況を即座に把握し、衛生状態を保つソリューションとして、今後も大きく貢献してくれることになるでしょう。

IT部 デジタルソリューション課 課長  
田村 進司氏

## サイバーハイジーンは喫緊の課題

新たなセキュリティ構想を検討する中で、すべての端末を管理下に置き、アンチウイルスなど指定されたソフトウェアを適切に稼働し、パッチを確実に適用すると言ったサイバーハイジーン(衛生管理)の徹底が必要だと考えた。

パッチ適用には別のツールを使用していたが、機能が限定されており、運用にはノウハウが求められるため、作業が属人化していた。またパッチ配信に伴う業務負荷は大きく、ネットワーク帯域を過度に使用してしまうこともあった。そして最大の問題は、「今の状態」がわからないことだった。問題が発生した際も、すぐに状況を把握することができず、情報を取得できても1日遅れの情報になってしまっていた。そこでまず、これらの課題を解決できるTaniumの導入を決定した。

IT部 業務データデザイン課 原 健士氏は、「パッチの配信や適用で問題が発生しても、正確な状況や原因を把握することが難しく、調査にも時間をかけられない状態でした。このままだと、時間の経過とともに状況が悪化してしまうと危惧していました」と話す。



IT部 業務データデザイン課 原 健士氏

すべてのPCをIT部の担当者が見て回るわけにはいかない。反面、エンドユーザーの手をわずらわせることは本来すべき仕事の時間を奪ってしまうことになる。ユーザーのPCスキルは均質でなく、PC環境もネットワーク環境も様々だった。「一度パッチ配信に失敗すると、次の配信も失敗してしまいます。ITの衛生面については、全体把握とクリーンアップが必要だと認識していました」(原氏)

田村氏は、「主なサイバー攻撃手段の一つとして、メールによる攻撃があります。現状ほとんどのメール攻撃はメールセキュリティシステムで食い止めています。不審なメールでランサムウェアが相当数送りつけられていることはわかっています。すべてのPCを管理下に置き、最新のセキュアな状態に保ち続ける仕組みを用意することで、既知の脆弱性に対する攻撃を漏れなく防衛したいと考えました」と話す。

Taniumに最も期待したのは、ネットワーク帯域に負荷をかけずにパッチやアプリケーションを配信できる機能だった。フルノには、CADファイルに代表される巨大なファイルを扱う業務がある。拠点内のネットワーク帯域であっても、その使用量が多ければ業務に影響を与えるリスクは高い。また、従業員が退社する際にはPCの電源を落としていることが多いため、夜間配信も不可能な状況だ。Taniumを使えば、エンドユーザーに通常通りに業務を進めてもらいながら、IT部が衛生的なPC環境を提供できる。

## 全社に設置されているPCの状態をリアルタイムに把握

Tanium環境を構築しながら試験的にチェックしてみたところ、そのスピードに驚いた。全社に設置されているPCの状態をリアルタイムに把握できるのだ。それは同時に、衛生面における懸念が現実のものだったことを突きつけられる結果にもなった。そこで、実際に大規模配信をするにあたり、ネットワーク帯域の上限を決めるなどの作業を進めながら、一部で試験配信を実施した。

原氏は、「ファイル配信時のキャッシュ機能は、価値が高いと感じました。途中でPCの電源を落とせば最初からやり直しになってしまう仕様では、使った帯域や時間を無駄にしまいます。その点において、Taniumなら無駄なく確実に配信できます。また、Tanium Cloudを利用することで、オンプレミスのシステムと比較して運用の負荷を半減できたところも、大きなメリットでした」と話す。

現在は運用ルールを策定している段階だが、2022年度中にはTaniumを使って本格的にパッチやアプリケーションの配信を開始する予定だ。Taniumの機能をより深く理解するためのトレーニングを受講し、習熟度を高めてさらに多くの機能を使いこなせる体制を整えることも計画している。

その後は海外展開へ。セキュリティは企業全体として取り組まなければならない課題だ。国内での手ごたえを受け、海外の状況も可視化して把握するために、Taniumのさらなる活用を検討していく。

お問い合わせ



タニウム合同会社  
〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目6-4 常盤橋タワー25階

 <https://www.tanium.jp>  
 [jpmarketing@tanium.com](mailto:jpmarketing@tanium.com)